

# Osaka Metro まちさんぽ

## 長堀鶴見緑地線 大正駅

### 勘助島の三軒家

大正駅  
60分  
コース

な に わ  
難波の義侠・中村勘助の足跡を訪ねて

三軒家は海から木津川をたどって市中へ向かう大坂の玄関口でした。江戸時代には諸国の船が往来し「千石二千石の大船、出帆あり着船あり」と賑わい、天下の台所、日本経済の中心地となった大坂を支える港でした。明治になって日本の近代紡績工業が発祥したのもこの地です。



初代大正橋

近代紡績工業発祥の地

スタート駅	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	ゴール駅
長堀鶴見緑地線 大正駅 ②号出口	勘助島	大正橋	大地震両川口津浪記	(木津川橋梁) X字トラス構造鉄橋	勘助島の渡し碑	難波島パネル 百済橋跡	中村勘助之碑 八坂神社(上之宮)	近代紡績工業発祥の地	八坂神社(下之宮)	呑海寺	長堀鶴見緑地線 大正駅

江戸時代まで木津川下流は分流して姫島、難波島などのいくつもの川中島を形成していました。勘助島を開発した中村勘助は、飢饉に苦しむ農民を救済しようと市中の米蔵破りを決行した義侠です。勘助島の三軒家に中村勘助の足跡を訪ねます。

大正駅  
60分  
コース

# Osaka Metro まちさんぽ

長堀鶴見緑地線 大正駅

勘助島の三軒家

## 難波の義侠・中村勘助の足跡を訪ねて

三軒家は海から木津川をたどって市中へ向かう大坂の玄関口でした。江戸時代には諸国の船が往来し「千石二千石の大船、出帆あり着船あり」と賑わい、天下の台所、日本経済の中心地となった大坂を支える港でした。明治になって日本の近代紡績工業が発祥したのもこの地です。

スタート駅

約 60 分

ゴール駅

### 長堀鶴見緑地線大正駅②号出口

### 長堀鶴見緑地線大正駅

#### 1 勘助島 ・木津川口遠見番所跡

かつて木津川と尻無川に挟まれた現在の三軒家あたりは姫島と呼ばれていましたが、中村勘助が慶長15年(1610)に豊臣家のために軍船係船所や船着場の整備を行い、その功により勘助島と名づけられました。宝永5年(1708)には江戸幕府がここに木津川口遠見番所を設置し、海運拠点として一帯の整備を進め、ここが大坂経済を支える玄関口になりました。



#### 2 大正橋

大正区域は運河に囲まれた島状の地形であるため、周辺の地域とは渡し船のみ往来できました。大正4年(1915)、架橋への住民の願いが実現して、市電開通とともに、幅員19m、支間長90.6mの当時日本では最長のアーチ鉄橋が架設され、新しい時代を開く美しい橋として大きな話題になりました。昭和7年(1932)に新しい区が生まれたとき、大正橋の名前から大正区と決まりました。



#### 3 大地震両川口津浪記

大正橋の東側の碑には、安政元年(1854)に大坂を襲った安政大地震に因る大津波の惨状と「後人の心得…願くば心あらん人、年々文字よみ安きよう墨を入れ給うべし」と後代に伝えてほしいという先人たちの願いが記されています。現在も地元の人たちによって碑文に墨が入れられています。



#### 4 X字トラス構造鉄橋 (木津川橋梁)

JR環状線の木津川橋梁は鉄材をX字に組んだ長さ106m、長方形・箱型の白い鉄橋で、非常に頑丈ですが鉄材を多く使うのでいまでは珍しい構造です。ダブルワーレントラス形式と呼ばれ、三角形を組み合わせたトラス橋に比べて高さ2倍ほどあって橋脚がありません。JR大正駅の反対側に同型・同規模で緑色の岩崎運河橋梁があり、双子の鉄橋と呼ばれています。



#### 5 勘助島の渡し碑

おおさか 大津橋のたもとにある碑には、正面に「わたし 勘助島」、右面に「すくちかみち なんば 今宮 天王寺 住吉 あみ田池 道頓堀」と刻まれています。渡船は勘助島と木津川対岸の難波島を結んでいました。大津橋は大正区と浪速区から1字ずつ取って名づけられました。



#### 6 百済橋跡・難波島パネル

このあたりはかつての難波島の一部で難波村と地続きでした。江戸時代から船大工が多く住み、大正期には造船所が15社もあり、現在も工場街となっています。百済橋は難波島西側を流れる三軒家川に架かっていましたが、川の上流部が埋め立てられたため廃橋になりました。



#### 7 八坂神社(上之宮)・中村勘助之碑

中村勘助の出自は相模の藩士の家で、武士を嫌って大坂の木津村に移住したとされています。土木の才があつて木津川開削や新田開発に尽力し、開発地は勘助島と名づけられ、木津勘助とも呼ばれました。寛永18年(1641)の大飢饉では、窮民の救済を求めて市中の米蔵破りを決行し、死罪をい渡されましたが、助命嘆願によって減刑されてなんと勘助島に鳥流しの刑に。これら中村勘助にまつわる伝説が歌舞伎、講談、落語、浪曲で伝えられています。八坂神社は勘助が新田開発の鎮守として正保4年(1647)に京の八坂神社の分霊を勧請したのがはじまりです。「中村勘助之碑」が境内にあります。



#### 8 近代紡績工業発祥の地

明治16年(1883)、渋沢栄一や藤田伝三郎らが出資した大阪紡績会社が三軒家村で操業を開始、これがわが国最初の近代紡績工場です。自家発電機による照明で夜間も操業され、工場が不夜城のように浮かびあがり、多くの見物者が集まりました。その後、木津川流域には多数の紡績、繊維工場が集積し、大阪は英国産業革命の中心都市になぞらえて「東洋のマンチェスター」と呼ばれました。



#### 9 八坂神社(下之宮) 10 呑海寺

この神社は寛永2年(1625)に三軒家の住民が氏神として建立しました。のちに創建された中村勘助の八坂神社を上之宮、当社を下之宮と呼びます。向かいの呑海寺は寛文10年(1670)の台風で周囲が浸水したとき、浜に打ち上げられた菩薩像を安置したのが起源とされており、いまでも「浪除観音」として敬われています。



文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。なお、掲載している情報は2022年11月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro

協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先)大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp

後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<https://www.osaka-asobo.jp> または [大阪あそ歩](#) で検索

#### ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。

※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。

#### ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

#### 駅スタンプ押印欄



毎月第1金曜日発行